

# 手術ロボット「ダビンチ」導入

## 製鉄記念室蘭病院 来年3月稼働

製鉄記念室蘭病院は手術支援ロボット「ダビンチ」を導入した。同院によると、胆振管内では初めて。従来の腹腔鏡手術よりも緻密な操作ができ、出血が少ない。来年3月から前立腺がんの摘出手術に使い始めるのを皮切りに、さまざまな手術に活用していく。(生田憲)

## 前立腺がん摘出から

ダビンチは4本のアームにカメラや鉗子などの器具を付け、患者の体に空けた小さな穴から差し込む。執刀医は3次元画像を見ながら、ダビンチを遠隔操作する。

アームの可動域が270度と広く、手ぶれ補正機能もあるため、人間の手では不可能な精密な手術を行える。腹腔鏡手術では助手が持つカメラを執刀医自身が

操作でき、医師のストレスが少ない利点もある。手術費用は従来の手術と変わらない。導入費用は非公開だが、定価は約3億円。

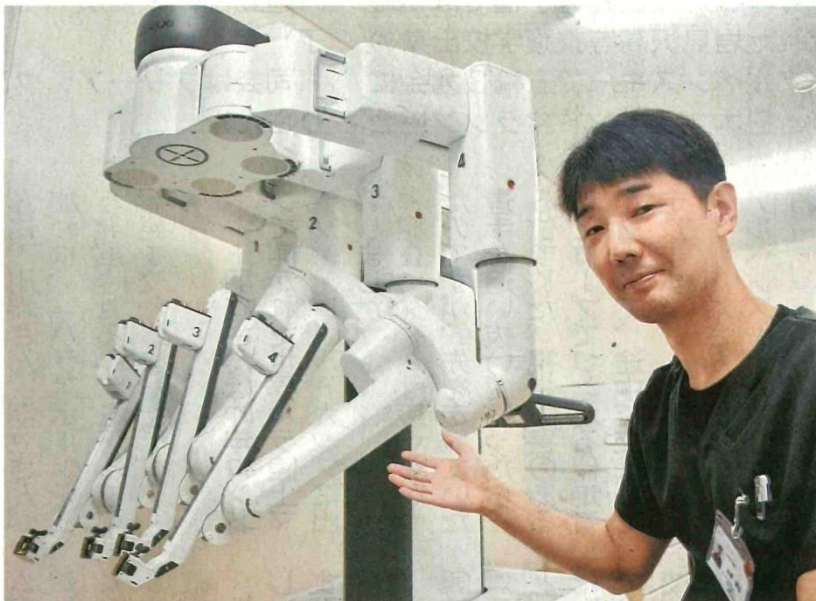
道内の医療機関がダビンチを導入するのは16例目。

これまでダビンチ手術を希望する患者は、札幌の病院に通院せざるを得なかった。前立腺がん手術を担当する同院泌尿器科主任医長の前鼻健志さんは「そもそ

も、これまで胆振管内には前立腺を全て摘出する手術ができる病院はなかった。やむなく放射線治療を選ぶ

患者もいた」と効果を説明する。

同院は、腎、肺、胃、大腸のがん手術に順次ダビンチを活用していく。前田征洋院長は導入に際し「先進的医療に積極的に取り組むことで、外科系医師のモチベーション(動機付け)向上など今後の医師確保にも有用と考える」と話した。



ダビンチを紹介する前鼻健志さん。ロボットにはさまざまな器具を装着するアームが4本付いている